

## Заключение

В методике обучения языкам с использованием иероглифических знаков на первых этапах обучения целесообразно использовать методику анализа происхождения и развития иероглифов от самых ранних форм начертания, а также рассмотреть этапы изменения иероглифического знака.

Такой подход позволит учащемуся не только лучше запомнить происхождение иероглифа на сформировавшихся ассоциативных связях, но и получить информацию о культурных реалиях изучаемого языка. Кроме того, при обучении японскому языку изучение этимологии слов, связанных с тем или иным иероглифическим знаком, позволит лучше запомнить данный знак, а также запомнить слова, связанные с этимологией разбираемого слова.

## Литература:

1. Boltz W.G. The Origin and Early Development of the Chinese Writing System. – New Haven, 1994.
2. 廖文豪. 汉字树. – 北京, 2013.
3. 谢光辉. 汉语字源字典. – 北京, 2000.
4. 前田富祺. 日本語源大辞典. – 東京, 2005.
5. Wang Hongyuan. The Origins of Chinese Characters. – Beijing, 2004.
6. 杨寒梅. 图说汉字五千年. – 武汉, 2009.

УДК 8.81

**Томоко Симбо**, старший преподаватель

*Кафедра алтаистики и китаеведения*

*Казанский (Приволжский) Федеральный Университет*

*[tomoko.z122@gmail.com](mailto:tomoko.z122@gmail.com)*

## ИСПОЛЬЗОВАНИЕ ИНТЕРНЕТ – ТЕХНОЛОГИЙ ДЛЯ ОБЕСПЕЧЕНИЯ МЕЖКУЛЬТУРНОЙ КОММУНИКАЦИИ В МЕТОДИКЕ ПРЕПОДАВАНИЯ ЯПОНСКОГО ЯЗЫКА (НА ПРИМЕРЕ «ПРОЕКТА ОРИГАМИ, СОЕДИНЯЮЩЕГО СЕРДЦА»)

**Аннотация.** В статье описывается опыт использования Интернет – технологий и мультимедиа как возможности для межкультурной коммуникации. Автор поднимает проблему повышения мотивации, оптимизации процесса обучения японскому языку, значимости для студентов интернет – общения с носителями в условиях дефицита реального общения.

**Ключевые слова и фразы:** японский язык, межкультурная коммуникация, интернет – технологии, мультимедиа.

**Tomoko Shimbo**, Senior lecturer

*Department of Altai and Chinese Studies*

**Abstract:** The article examines experience of using Internet technologies for the process of international communication. The author shows the problem of motivation of the students, the optimization of educational process, and concludes the importance of communication with native speakers in the situation of deficiency of real communication.

**Key words and phrases:** Japanese language, international communication, Internet - technologies, multimedia.

日本語教育におけるインターネットを活用した国際交流

「心をつなぐ折り紙プロジェクト」活動報告

カザン連邦大学 国際関係歴史東洋学部

日本語講師 真保知子

はじめに

今やインターネットを使った通信システムは、私たちの生活に欠かせないものになっている。教育現場でもインターネット環境が整い、世界中の人たちとつながれる時代がやってきた。本大学の日本語コースでも 2016 年度からインターネット環境が充実したことにより、「カザンから世界へ！」をテーマに SNS を活用した情報発信を積極的に実施している。

今回は、2016 年 11 月より開始した、本大学日本語コースの学生と日本の福島県伊達市立桃陵中学校特別支援学級の生徒との交流活動について報告したい。

## カザンの日本語環境と現状

### 〈カザン連邦大学日本語学習者〉

2015 年度 27 名

- ・ 国際関係ビジネス学部 11 名
- ・ 言語学部 16 名

2016 年度 78 名

- ・ 国際関係ビジネス学部 1 年生 16 名  
3 年生 11 名
- ・ 言語学部 3 年生 15 名
- ・ 日本経済 1 年生 36 名

### 〈カザン在住の日本人〉

2015 年度 8 名

- ・ 留学生 6 名（短期留学 2 名を含む）、
- ・ 研究員 1 名
- ・ 日本語教師 1 名

2016 年度 6 名

- ・ 留学生 1 名、
- ・ 社会人（企業派遣、ロシア語を履修）2 名
- ・ 研究員 1 名、高校生 1 名
- ・ 日本語教師 1 名

カザンの日本語環境は必ずしも恵まれているとはいえない。この数値を見てもわかるように、増加傾向にある日本語学習者に対し、交流可能な日本人の数が圧倒的に少ない。日本語教室で開催する交流会などに参加しても実際に日本語を使える場は、ごくわずかである。

## 交流開始の経緯

桃陵中学校の担当教師猪狩克也先生は、私の元同僚である。以前より国際教育の一環として共にロシアと日本で何か交流ができないかと試行錯誤をしていた。お互いの学習環境などを考慮し、動画や写真を送りあうことで交流活動を始めることにした。また、担当教師間では、「だれでも普通にできる国際教育プラン」を考えることを目標にし、実践例を作ることで世界のどこでも実践可能であることを提示していくこととした。交流活動の開始

にあたり、個人情報の取り扱いに十分注意するなど、以下共通の指針を作成した。

テーマ：折り紙

交流頻度：月1回程度

方法：① 日本から「折り紙の折り方」ビデオを作り、YouTubeに投稿してもらう。

② 学生は、ビデオを見ながら折り紙を折る。

③ 作成中の様子を写真やビデオに撮り、感想とともに返信する。

④ 反省を次の交流にいかす。

## 国際教育の現状

日本の文部科学省では、2005年度より国際社会において主体的に行動できる人材の育成を目標に国際教育推進プランが実施されている。しかしながら、猪狩先生のお話を伺うと思うように実施されていないのが現場の状況であることがわかってきた。また、前述のカザンにおける日本語環境をみても、限られた範囲内で日本人との交流を持つことには限界があることがわかる。よって、インターネットを活用した日本との交流活動は、カザンの日本語学習者には大変有効であるのではないだろうか。

## 「心をつなぐ折り紙プロジェクト」実践

### ・第1回（2016年11月28日、30日）

日本から投稿されたYouTubeを見ながら折り紙を作成。ペアで動画を見ながら折り紙を折る。3年生は作成後、中学生に向けて日本語でメッセージを書き、写真撮影。SNS上で作成の様子や写真を公開した。また1年生は「ありがとうビデオ」を作成し、日本へ送った。

### ・第2回（2017年1月4日）

日本から「クリスマスメッセージビデオ」が届く。3年生一人一人に向けられた日本語のメッセージ。

### ・第3回（2017年2月14日）

3年生がクリスマスビデオのお礼として、「ありがとうビデオ」を作成し、日本へ送った。簡単なロシア語のあいさつ（Добрый день, Спасибо, Пока）も日本語で紹介した。

#### 活動から見えてきたこと

この活動の良い点は、動画を何度も見直すことができる点である。折り紙づくりに挑戦するにしろ、ビデオメッセージを見直すにしろ、わかるまで自由に自分のペースで再生が可能である。また、ペアで学習することにより、学習者同士の中に学びが生まれる。実際に目に見える相手に、どんなメッセージを伝えるのか、または書くのか、今まで学習してきたことを実践する絶好の機会になる。発音やイントネーション、話の内容はきちんと相手に伝わるか、誤字脱字はないか、文は正しいのかなどを自ら判断しなければならない。また、中学生からのビデオメッセージをみて、笑顔になっている学生がほとんどだった。相手が自分だけに向けてくれた日本語メッセージを懸命に聞こうとしている姿勢が印象的だった。この活動から多くの気づきを得ることができた。

#### おわりに

学習者は、インターネットを通じて世界中の日本語話者と交流を持つチャンスがある。相手が見えたり、リアルな反応をもらえたりすることで学習意欲も向上し、学習を継続する力になるのではないだろうか。インターネットのいいところは、いつでもどこでもだれとでもつながれることである。主体的な学びが学習効率を上げるだけでなく、人と人との気持ちもつなげるものであったならうれしく思う。今後も学習者と世界をつなげる活動を続けていきたい。

#### 参考文献:

1. 文部科学省ホームページ [http://www.mext.go.jp/a\\_menu/kokusai/plan/](http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/plan/)
2. 帰国後の活動報告 伊達市立桃陵中学校 教諭 猪狩克也(平成28年度全海研東北ブロック大)
3. 会・福島県国際理解教育研究会資料)

SNS（参考まで）:

1. 【Vkontakte】 ワクワク日本語教室 Захватывающий японский  
[https://vk.com/nihongokyoushitsu\\_ksu](https://vk.com/nihongokyoushitsu_ksu)

2. 【Facebook】 カザン連邦大学ワクワク日本語教室 КФУ, захватывающий японский  
<https://www.facebook.com/kazanwakuwakunihongo/#>

Youtube 【おりプロ】 手裏剣 <https://youtu.be/VkvJXpxZhIs>

УДК 378.4

**Тохметов Асылбек Тимербекович**, канд. ист. наук, профессор

*Кафедра восточных языков и перевода*

*Казахский Национальный педагогический университет имени Абая*

*[Tokhmetov@mail.ru](mailto:Tokhmetov@mail.ru)*

## КИТАЙСКИЙ ЯЗЫК В ВУЗАХ КАЗАХСТАНА

**Аннотация.** В статье рассматриваются некоторые вопросы преподавания китайского языка в высших учебных заведениях Казахстана, дается анализ сложившейся ситуации, прогнозная оценка роли и места китайского языка в системе высшего образования республики.

**Ключевые слова:** китайский язык, Казахстан, университет, студент, методика преподавания, наука, развитие.

**Tokhmetov Assylbek Temirbekovich**,

*Ph.D. in History, Professor*

*Department of oriental languages and translation*

*Abai Kazakh National pedagogical University*

*[Tokhmetov@mail.ru](mailto:Tokhmetov@mail.ru)*

## CHINESE AT UNIVERSITIES OF KAZAKHSTAN

**Abstract.** The article discusses some of the issues of Chinese language teaching in higher educational institutions of Kazakhstan. It also provides analysis of the current situation as well as the predictive evaluation of the role and place of the Chinese language in the system of tertiary education of the Republic.

**Key words:** Chinese, Kazakhstan, university, student, method of teaching, science, development.

Развитие экономических, политических и культурных связей между Казахстаном и Китаем требует большого количества специалистов, владеющих китайским языком. Это обстоятельство обусловило растущий интерес к изучению